

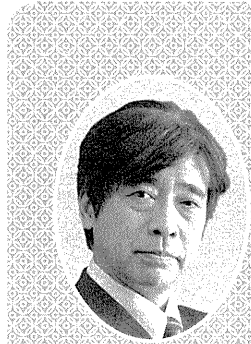
完全な非核化はトランプ大統領次第

北東アジア情勢と日米安保の役割

最終回 米朝首脳会談後の 大国のパワーゲーム

拓殖大学海外事情研究所所長

川上高司



スタートした大国間のパワーゲーム 北東アジアの米・中・ロの勢力均衡に影響

米朝首脳会談が終わり、大国間のパワーゲームが始まった。米朝首脳会談が終わり、大国間のパワーゲームが始まった。米朝首脳会談が終わり、大国間のパワーゲームが始まった。

今後の朝鮮半島情勢は北東アジアにおける大国間の勢力均衡に大きく影響する。米朝関係が進展すれば、米国の勢力圏が中国国境線まで及ぶ。これは中国からすれば決して許せないシナリオであろう。

「非核化」と「朝鮮戦争の終結」のデール 大変動の可能性もある北東アジア情勢

今回の米朝首脳会談で、「朝鮮戦争の終結」と「北朝鮮の非核化」という全く違うイシュー(論点)が「取引」(デール)されようとした。今後、前者が後者に先行して進めば、

防衛政策を根底から見直す事態も

ら韓米軍撤退までのロードマップが開始される仕掛けになっている。その後は国連軍の解体となり、米韓連合司令部の作戦統制権は韓国に戻されるであろう。さらに、米朝友好条約の締結が行われれば北朝鮮が米朝同盟国となり脅威でなくなり、米韓同盟条約の破棄にもつながる。その結果、北朝鮮への抑止として駐留してきた約2万8000人の在韓米軍の存続意義はなくなる。加えて、トランプ大統領は5月13日に在韓米軍を「巨額の金がかかるから、できるだけ早く軍を撤退させたい」とし、ポンペオ国防長官も同日「大規模な軍縮の2年半以内の達成を望む」と表明した。在韓米軍撤退となれば日本は米朝同盟国となり、北東アジア太平洋地域における安全保障の最前線に立つこととなる。

非核化と朝鮮戦争終結へのロードマップ 絶対に避けたい「中途半端な非核化」

一方、「朝鮮半島の完全な非核化」が共同声明ではうたわれた。非核化のロードマップは核実験を凍結し、核施設の場所や核計画を申告し、申告内容が検証され、核施設の解体や核関連物資が破壊され、そして、査察で後戻りができないかを検証し完了するのである。また、北朝鮮の非核化は長期化し、スタンフォード大学の報告「北朝鮮非核化への技術ロードマップ」では6〜10年かかると述べられている。北朝鮮の非核化が行われている間に、トランプ大統領が「朝鮮戦争の終結」を行う可能性もある。そうすれば、北朝鮮の非核化は中途半端に終わら

り、「あいまいな合意」で終わりがかねない。そのような結末は日本にとり最悪のシナリオとなる。すなわち、北朝鮮の核が完全に撤去されず、しかも米本土に到達する大陸間弾道ミサイル(ICBM)は破棄されても、日本を射程に収める中距離弾道ミサイル(IRBM)は存続する状況である。その結果、米国の日本への核の傘は消滅する。全てはトランプ大統領次第となる。大統領は今年の11月6日の中間選挙勝利のため北朝鮮問題で支持率を上げることが至上命題となっている。仮に負けた場合、ロシアゲートの公聴会が開かれる可能性がある。そうなればトランプ大統領のロシアとの不動産取引や資金洗浄疑惑の解明次第では、大統領再選はあり得ない可能性がある。

トランプ大統領がもし朝鮮半島をあきらめた場合、1950年の米国の「アチソン・ライン」(不後退防衛線)「フィリピン・琉球諸島・アリューシャン列島」の復活となる。その場合、当然、東アジア全体の米軍態勢が見直されることとなり、在日米軍と自衛隊の防衛態勢も大きく見直され、結果的に日本にとって防衛政策を根底から見直す事態となろう。